

なりたの昔話

第1回

このコーナーでは、昔から語り伝えられてきた成田の昔話や伝説などを掲載していきます。

【参考文献】コミュニティ成田No.24(昭和63年発行…成田市)

助崎城のお姫さま

戦国時代のことです。

助崎城のお殿さまは、小田原まで戦いに行つて留守でしたので、城はお姫さまが守っていました。

この時、敵が攻めてきました。お姫さまはおおぜいを相手に長刀をふるって戦いましたが、その人数にはとてもかないそうにありません。家来が、

「もうこれまでです。お姫さまはこの城から逃れてください」

と叫びました。しかしお姫さまは、

「いやじゃ。お殿さまからあずかったこの城、何としても守らなければならぬ」といつて、逃げようとせませんでした。

そうこうするうちに、小田原のお殿さまが負けたという知らせが届きました。お姫さまはどうとう城を捨てて落ちのびる決心をし、家来三人を連れて馬に乗りました。

その途中、土室の手前にある川にさしかかると、お姫さまは馬で一気に跳ねて越えました。そして近くにあつた祥鳳院にかけこみ、

「どうか、かくまってください」

と、頼みましたが留守で入ることができませんでした。やむをえず、お姫さまたちは大室の円通寺に向かいました。円通寺でやつとかくまってもらい、ここから間近に見える助崎城が焼け落ちるのを、涙ながらにながめました。お姫さまは、この円通寺で尼になり余生を過ごしました。

以来、お姫さまが、跳ねて越えた川を「お跳ね川」と呼びましたが、やがて「尾羽根川」といわれるようになったそうです。

お姫さまが使つたという長刀が円通寺に伝えられています。この長刀は、全長三メートルほどのもので、毎年七月十九日の助崎祇園祭というお祭の時に、みこし行列の先頭にたつ人がかつて歩くのだそうです。



編集後記

「世紀の天体ショー」といわれ、テレビなどでかなりの盛り上がりを見せた「金環日食」。前日に観測用グラスを手に入れようと市内のショッピングモールを訪ねると、入口には「完売しました」の立て看板が…。あちこち探してようやく手に入れ、翌日さくらの山へ向かいました。幸運にもリングを見ることができ、このチャンスに巡り合えた幸せと壮大な宇宙のスケールを感じながら、あっという間の数分間が過ぎて金環日食は終わりました。

平成24年6月15日号 No.1221

成田市のホームページ

<http://www.city.narita.chiba.jp>

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす用紙、誰にでも読みやすいUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しています。